

第三幕

第一場 [アドリオ、カシーロ、チェルケス人将校]

アドリオ
準備は整ったか？
決められた場所に配備出来ているか？
武器の用意にも抜かりはないか？
この宮殿より延びる街道は 730
封鎖したか？戦場で降伏せぬ限り、
誰一人として生きては逃れられぬよう
火器を配備したか？

将校
すべてはご下命の通りとなっております。
数こそ少ないですが、惧れを知らぬ 735
若き勇猛なチェルケスの男達が
瞬く間に集まりました。
彼らは奴隷となった哀れな女達の親族で
愛する気持ちは彼女らを救い出さんとうずうずしております。
ご命令をお待ちしております。

アドリオ
時が来たら 740
呼びにやるので、来るように。

カシーロ
父上、
いつになれば気高いこの力を振るえるのでしょうか。
いつになればこの剣で
新しい名誉を打ち立てられましょう。
私抜きで軍勢を率いられるとでも仰るのですか？ 745
父上の名誉が高められるのに私の名は地に墮ちるのですか？
父上が戦われるのにこの腕は安息を食むのでしょうか？
なぜ私にも指揮を取らせてくださらないのですか？
ともに兵を率いるには不足というのであれば
（それは敵の判断することですが） 750
せめて父上のおそばでなくとも、
先方に立つ一兵卒としてお連れください。
どのような危険にも決して怯みはしません。
父上の息子であることを知らしめられぬなら、
なぜ私に生を享けさせたのでしょうか？ 755
軍旗の下に私の姿がなければ、一体
ご命令に従ったのか、尻尾を巻いて逃げ出したのか、判別つきませぬ。

私の年齢を、父上と私の名誉をご勘案の上、
作戦に加えてくださいまし。〔拝跪して〕
さもなくばこの剣で私の胸を貫いてくださいませ。 760

アドリオ

お前の覇気が語らせる気高き不平は、
私の息子であることを確かに証するもの。
そして私が父であることは、漏れ出ずる
この優しい嘆きがその証となるだろう。
ここへ来て、凍えきったこの胸を 765
父への愛に燃えるお前の胸で暖めてくれ。
分別を以ってその激しい思いを鎮めよ、
またの機会もあろう、その時まで。
このような場合は慎重が功を奏するのだ。
こうした兵の配備と作業は 770
もしソラーヤが、優しき娘が、私の愛から
離れられぬと決意した時に
セリンが約束を反故にせぬように
備えをしているだけなのだ。

カシーロ

ソラーヤを手元に残したいのであれば、 775
この勇気を用いてくださればよいものを。
私が脅してやりさえすれば・・・

アドリオ

息子よ、あれの忠実な侍女カサリアが
告げ知らせたところでは、父と恋人への
千々に乱れる激しい心情のうちに、 780
決意をしかね、苦しみ悲嘆にくれているという。
あるときは我が愛に屈し、
またあるときは恋人に屈する。
目まぐるしく移る感情に答えを出しかねているとはいえ、美德こそ 785
より強きもののようだ。もし迷っているあの子を
父親の愛から、そして正義から
甘言を操ってタタール人が奪おうものなら、
武力を持ってあの者に
従うべき大義を示さねばならん。 790
そのために細心の注意を払って兵を集めたのだ。
かくも壮大なこの作戦を
あの将校に打ち明け、指揮を取らせることとした。
お前の激しさで事を仕損じては、
我等の不幸は疑いもない。 795
それゆえにお前には秘密にしておったのだ。

第二場 [前場の人物、カサリア]

カサリア

旦那様、忠節の心から
ご報告に罷り越しました。
ソラーヤ様のお心は旦那様と
愛する家を捨てない方へと傾いております。 800
恋人を拒むことを
今この瞬間にもご決断あそばされるかもしれません。
私が熱心にそのお心を
説き伏せたのではありません。
その名誉と高貴から、自ら進んで 805
恋より美德をお選びになったのです。

カシーロ

何と申したか、カサリア？かくも快い言葉で
阿っているのではあるまいな。

アドリオ

何と、天よ！正義が正しく行われるのでしょうか？
思いもよらぬ嬉しい知らせに 810
この心が絶え入らんばかりの喜びを覚える。
カサリア、もっと話してくれ。その知らせを
聞きたいという思いを満足させてくれ。

カサリア

あらためて申し上げます、旦那様。
そのお喜びを表されるのが相応しいかと存じます。 815

カシーロ

エラクリオはどこにいるのだ？

アドリオ

めでたきかな、

あれの軽薄がもたらした
悲しみが喜びに替わったのだ。
カサリア、行ってよいぞ、あれのそばを離れるな。
心を決めさせるようしっかりと努めよ。 820
すべてに注意を払うのだ、
(幼少よりお前はあれのそばに付き添っているが)
あれに使えた年月から来る
忠誠も意に介さぬがよい。
ああ、心を決めるのだ。カサリアが、年老いた父が、 825

祖国が、家が、兄弟があるぞ。
自ら決意するがよい、純粹にして愚かにも
異邦の恋人に身を委ねた娘よ。

カシーロ

とりわけセリンの奴がまたしても甘言を弄して
その考えを説き伏せぬように 830
姉上をしっかりと見張ってくれ。
もしもそんなことになったら、この怒りでアジア全土が炎に包まれよう。

アドリオ

息子よ、心配するでない。思うに
私の不幸を哀れに思ってくださった天が
この喜びを与えてくださったのだ。 835
さらに大きな喜びだ。エラクリオもやってきたぞ。

第三場 [アドリオ、カシーロ、カサリア、エラクリオ]

エラクリオ

本当なのでしょうか、父上、私が耳にしたことは？

カシーロ

天が私達の運命を変えてくださった。
ソラーヤはこの家を離れないことに
ほとんど心を決めたらしい。侍女の 840
カサリアが知らせてくれたのだ。

アドリオ

そうだ息子よ、追い風を受けて
運命の輪は幸運へと向い始めた。
天はあれがとどまることを望んでおられる。
この喜びをともに祝っておくれ。 845
老いたる私の誇らしき心の支えよ、
疲弊した、哀れなこの身に生気を吹き込むものよ、
この腕に抱かれに来るがよい。

エラクリオ

敬愛する立派な父上、 850
私達兄弟もともに随喜の涙を流しましょう。

アドリオ

この喜びをお前達と分かち合おう。
幸いなるかな、今日この日に
この家は幸せを取り戻したのだ。

第四場 [前場の人物、セリン、カウリン]

セリン

一体どうしたのだ、随分と喜んでいるが。 855

カウリン

ソラーヤ様が戻られるのを待っているのでしょうか。

セリン

これはどうしたことだ、チェルケス人よ。なぜに
そんなにも喜びをあらわにして、私を苦しめるのだ？
ソラーヤを待っているのか？

初恋はそんなにも脆いものだったのか？ 860

お前達のために私を忘れ、捨ててしまうと？

天よ、我が当然の不平を聞き届けよ、
願いをかなえるためには、意のままに
扱える軍を率いながら、彼女の瞳に
私の望みを見て、審判を 865

喜んで彼女に委ねたというのに、
純真にも彼女の愛を信じた私を
天はお助けにならなかったというのか？

カシーロ

それがどうしたというのだ、セリンよ。お前は
哀れな我が姉上が名誉を知らぬとでも思ったのか？ 870
高貴な女性というものは、はじめ愛に揺さぶられて
それを喜んで受け入れることがあっても、
そこに危険を見出せば
情熱を黙らせ、美德に語らせるものなのだ。

セリン

(先ほどまでとはまるで違う) 875

お前達の話しぶりを聞けば
ソラーヤが私を捨てたのは確かなようだ。

しかしこんなことになったのは、
お前達が約束に反して、
あの無垢な心を翻らせたに違いない。 880

(使途の分からない兵を集めていることから
我が疑いは確信に変わった。)

当初の目的は違いこそすれ、私もまた
率いてきた軍勢を集めるとしよう。

私の前でお前達は沈黙し、 885

我が軍の前でお前達の兵士は震え上がったのだったな。

その將軍達さえ私の前に
敵いはせぬと逃げ出す始末。
私の幸せを阻むためだけに
軍を動かすものは勇猛ではなく憤怒というもの。 890
名誉ならずして兵を動かす
さもしき怒りを恥じるがよい。
約束に反した裏切り者は
この腕にかけて罰してくれよう。
さらばだ、もはや何も言うまい。だが、 895
あそこにソラーヤの姿。聞け、アドリオ、カシーロ、
エラクリオよ。言葉をかけてはならぬ。そっとしておくのだ。
これ以上私の怒りを掻き立てるな。
お前達の知る私の寛大も
厳しさに変わるのだ。

アドリオ

それはすでに明らか。 900
物事のうわべだけを見て裏切りが
明白であるかのように考えておられる。
私達が約束に反したと思うなかれ。
ソラーヤは千々に乱れる思いをしながら
あなたを捨てることに心を決めかけている。 905
私達がわずかばかりの軍勢を
こうして集めているのはただ、
(親心を、王子よ、大目に見て欲しい)
その時になって恋するあなたが、
約束を反故にせぬよう、 910
それを守っていただくために
こうして備えをしているもの。
真心を汲んで、怒りをおさめられよ。

カシーロ

だからといって、その口をついて出た
傲慢、我等の軍勢を 915
侮るなよ。貴様の愚弄した
男達は、私のそばにあって、
口先ではなく行動を以って英雄となるだろう。

セリン

それが彼女の決めたことであるなら
(おそらく私は敗れたのだろう、しかし満足だ) 920
先の約束を違えはしない。
激しい愛情で彼女を
お前達から奪いはしない。

その決断に従うまでのこと。
声はかけまい、顔も拝むまい。 925
いかなる愛情とであっても、恋人とどちらを
とるべきか迷うような女は
私の愛に相応しくはない。
彼女が来る。放っておくのだ。

エラクリオ

もしも

あれが、それでもお前の愛を選ぶというなら 930
私達は身を引こう。

セリン

分かった。カウリンよ、お前はとどまれ。

慎重な態度を崩すことなく、
その表情を観察せよ。声に耳を傾けよ。
愛が葛藤を繰り広げていよう。
お前がそこから読み取ったものを知らせよ。 935

カウリン

お申し付けの通りにいたします。 [セリン去る]

アドリオ

我々もともに下がるとしよう。しかし
あなたに命令されたからではない、
約束を尊んでそうするのだ。
約束を守るためには情けを殺さねばならぬ。 940

第五場 [ソラーヤ、カサリア、カウリン]

ソラーヤ

私の手を取ったあの気高き主人が
最後に口にされた言葉を
私も聞きました。ここに残って
私の考えを知ろうとしても無駄なこと。
誓って申しますけれど、私自身にも分からないのですから。 945
心に問いかけてみようとするのですが、
その理性の光は目をくらませるばかりで、私を導いてはくれません。
理性は譫妄の内をさまようばかり。

カウリン

その胸の痛み、お察しいたします。

ソラーヤ

痛みは感じません、錯乱しているのですから。 950
けれど悲しみをより深くするのは、
私の愛を手に入れることについての
セリン様の冷淡な仰り様。
それほど愛して下さってはいないのだから。
私を手放さないためには、 955
世界を敵に回し、
復讐の炎には愛の炎で抗し、
地上の支配より情熱を尊んで、
死さえもあの方を阻むことは出来ぬほど
愛に心奪われているのでなければ 960
恋人たる資格はないことを
示しては下さらないのですから。
そしてより悲しいことにはこの愛が
狂気の沙汰であると私も分かっているということ。
私が愛するようにセリン様も私を愛してくださるなら、 965
愛は厳しく残酷になり、
私の家族は滅んでしまう。
あの方がこの手を取れば、私は
父を、兄弟を、家を失ってしまう。
天よ、心臓が張り裂けそう。 970
愛に固執すればますます盲いてゆく。
ああ、私のセリン様！ああ、お父様、私の家！
ソラーヤ・・・屈するというの？震え上がっているの？
苦しくて怖気づいたの？何をしようと考えているの？
暴虐なる天よ！この柔らかな胸に 975
地獄の炎をすべて置かれるのですか。
こんなにも耐え難い不幸があるのに、
なぜこんなにも感じやすい心を私にお与えになったのでしょうか？
意地の悪い運命の前に
寛容な心は屈するべきというのでしょうか？ 980
しっかりするのよ、ソラーヤ、自分が誰かを思い出すのです。
か弱き理性よ、私に阿るつもり？
哀れな心がこんなにも弱いのに
なぜ堅固な気持ちを保てというのです？
カウリン、カサリア、二つの恋する心がすべてを 985
打ち明けられる気高き者達よ。
片や平穏、喜び、安堵。
片や当惑、悲しみ、炎。
行って伝えてちょうだい・・・けれど私の名において
何を伝えてもらえばいいのでしょうか？それが 990
ため息、すすり泣き、悲嘆の嘆きなら、
その様を、その感情を伝えられるでしょう。
あなたはセリン様に・・・あなたはお兄様達に。

けれど・・・残酷な天よ、私は何を言えばよいのでしょうか？

カサリア

その胸を苦しみと恥辱と驚愕に乱されて、 995
自らの過ちを悟ったあなた様が
お父君の足元を涙で濡らしたいと願われている。
そのようにお伝えいたしましょうか？
ご兄弟にはお怒りを解いていただき、
お父君が慈悲を賜りますよう 1000
口添えしていただくことを望んでおられると？

ソラーヤ

急いで行きなさい。そして懸命に
私の後悔とこの思いを伝えてちょうだい。
もしこの苦しみを伝えられるのならば。
一刻も早く戻ってくるのよ。 1005
ああ、優しいお父様！

カウリン

恋人には
あなたの優しさと美しさから
もはや愛情を求めないようにと申し上げますか？
なんとお伝えすればよいか、どうぞ仰ってください。

ソラーヤ

たとえどう思われようと、私はあの方への愛のために死にそうです、と。 1010

カウリン

他に何か申し上げることは？

カサリア

なんとおかわいそうな・・・

ソラーヤ

二人とも、私は気がふれていると伝えてちょうだい。
なぜなら天はこれほどの不幸をお与えになり、
苛まれる私の心の有り様を
描き出すその悲しい言葉でさえ 1015
同じくらいの苦しみを生み出すのですから。
強い心はもはや望みません。どんなに強い心でも
決して耐えられはしないのですから。死をお与えください。
死こそ最も簡潔にして、名誉にかなっている。
早ければ早いほど、それだけ栄光に満ちていることでしょう。 1020

